# 保証とアフターサービス（よくお読みください。）

【保証書（別添）】
この製品には、保証書を（別途）添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめ上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

【保証期間】
保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

【補修用部品の最低保有期限】
ケンウッドはこのUBZ-BG20Rの補修用部品を、製造打ち切り後、最低8年保有しています。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、営業所へお問い合わせください。（お問い合わせ先は、添付の“ケンウッドサービス網”をご覧ください。）

## 修理を依頼されるときは

37ページの“故障かな？と思ったら”に従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、ケンウッドのサービスセンターへお問い合わせください。
修理に出された場合、設定されたデータが消去される場合がありますので、別途お客様御自身でお控え下さいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合等によって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、ケンウッドは一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

【保証期間中は】
正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、営業所が修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

【保証期間が過ぎているときは】
修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

持込修理
この製品は持込修理とさせていただきます。修理をご依頼のときは、製品名、製造番号、お買い上げ日、故障の状況（できるだけ具体的に）、ご住所、お名前、電話番号をお知らせください。

【修理料金の仕組み】（有料修理の場合は次の料金をいただきます。）

技術料：
故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれます。
部品代：
修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

| 便利メモ |
| --- |
| お買上げ店<br><br>TEL　　　（　　　） |

KENWOOD

株式会社ケンウッド
〒150-8501　東京都渋谷区道玄坂1-14-6

●商品に関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。
電話 (03) 3477 - 5335
●アフターサービスのお問い合わせはお買い上げの販売店、または最寄りのケンウッド・サービスセンターにご相談ください。(別紙“全国サービス網”をご参照ください。)

KENWOOD

特定小電力トランシーバー

# UBZ-BG20R

# 取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

Ⓒ B62-1444-00
09 08 07 06 05 04 03 02 01 00

# 目次





# 安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。お読みになった後は必要なときにご覧になれるように大切に保管してください。

**絵表示について**　この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

| | |
|---|---|
| ⚠危険 | この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。 |
| ⚠警告 | この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
| ⚠注意 | この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

**絵表示の例**

△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。具体的な指示内容が描かれています。

## ⚠危険

### ■リチウムイオンバッテリーの取扱について

次のことを守らないと、けがや、バッテリーの漏液、発火、発熱、破裂を起こす原因となりますので、下記のことを必ずお守りください。

| | |
|---|---|
| ● 充電温度範囲は、5℃～45℃です。この温度範囲以外では充電しないでください。 | ⊘ |
| ● 専用チャージャー以外では充電しないでください。 | ⊘ |
| ● 所定の充電時間を越えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。<br>このバッテリーはUBZ-BG20R専用です。それ以外の機器に取り付けないでください。 | ● |

- ● ストーブのそばなど高温の場所で使用したり、放置しないでください。
- ● 火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしないでください。
- ● 端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘヤピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- ● 分解、改造や釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。
- ● 漏液したり、異臭がするときは、ただちに火気より遠ざけてください。
- ● 液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。

## ⚠警告

### ■使用環境・条件

- ● 交通安全上、運転しながら交信するのはおやめください。
- ● 電子機器（特に医療機器）の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。
- ● 航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内では絶対に使用しないでください（電源も入れないでください。）。運行の安全や無線局の運用や放送の受信に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤動作する原因となります。
- ● この製品を使用できるのは、日本国内のみです。外国では使用できません。
- ● 目の近くで送信したり、人にアンテナを近づけて送信したりしないでください。身体に障害を起こす恐れがあります。

### ■トランシーバー本体の取扱について

- ● 布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。
- ● イヤホンを使用する場合、電源を入れる前に、音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。
- ● 水につけたり、水をかけたりしないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。



- ● 近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- ● このトランシーバーは調整済です。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

### ■チャージャーの取扱について

- ● AC100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ● チャージャーのACアダプターと他の製品のACプラグのコードをタコ足配線しないでください。過熱・発火の原因となります。
- ● ぬれた手でチャージャーのACアダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ● チャージャーのACアダプターをACコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプターの刃に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。
- ● チャージャーのACアダプターの刃にほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや過熱により火災・感電・故障の原因となります。

## ⚠警告

### ■異常時の処置について

以下の場合は、すぐに本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、チャジャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店にご連絡ください。お客様による修理は、危険ですから、絶対におやめください。
- ● 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
- ● 落としたり、ケースを破損したとき
- ● 内部に水や異物が入ったとき
- ● ACアダプターのコードが痛んだとき（芯線の露出や断線など）

- ● 雷が鳴り出したら、安全のため早めに本体の電源をOFFにし、チャージャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

### ■保守・点検

- ● 本体やチャージャーのケースは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

## ⚠注意

### ■使用環境・条件

| | |
|---|---|
| ● テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。 | ⃠ |
| ● 直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。 | ⃠ |
| ● 湿気の多い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。 | ⃠ |
| ● ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 | ⃠ |
| ● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。 | ⃠ |

## ⚠注意

### ■トランシーバー本体の取扱について

| | |
|---|---|
| ● アンテナを誤って目にささないようにしてください。 | ❗ |
| ● 外部スピーカー/マイクロホン端子にはオプションのスピーカーマイクロホン以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。 | ⃠ |
| ● 旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源をOFFにし、電池をとりはずし、チャージャーをご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。 | ❗ |

### ■チャージャーの取扱について

| | |
|---|---|
| ● チャージャーのACアダプターを熱機具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。 | ⃠ |
| ● チャージャーのACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ずACアダプターを持って抜いてください。 | ⃠ |

### ■保守・点検

| | |
|---|---|
| ● お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、チャージャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。 | ❗ |
| ● 水滴が付いたら、乾いた布でふきとってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。 | ❗ |



## ご使用にあたっての注意



●本機は20チャンネル対応の特定小電力トランシーバーです。2つの運用モードを搭載し、ノーマルモードでは従来の9チャンネルと11チャンネルのトランシーバーのどちらとでも交信できます。また、レピーター運用モードでは従来の9チャンネルと18チャンネルのレピーターのどちらとでもアクセスできます。各チャンネルの機種間の組み合わせは表示部のチャンネル表示で確認できます。

**・ノーマルモード**（シンプレックス）

1～11チャンネル→従来の11チャンネルのトランシーバーとの交信にも使えます。

h1～h9チャンネル→従来の9チャンネルのトランシーバーとの交信にも使えます。

従来の機種との組み合わせについては、「UBZシリーズ互換表」（43頁）をご覧ください。

**・レピーター運用モード**（セミデュプレックス）

1～18チャンネル→従来の18チャンネルのレピーターとのアクセスにも使えます。

h1～h9チャンネル→従来の9チャンネルのレピーターとのアクセスにも使えます。

従来の機種との組み合わせについては、「UBZシリーズ互換表」（43頁）をご覧ください。

●通話のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、目安は次のとおりです。建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。

・市街地……………………100～200m
・高速道路上の車と車……300～500m
・見通しのよい場所………1～2km

●本機は多少の水滴がかかったり、濡れた手で使っても安心な日常生活防水仕様です。（JIS保護等級4防沫型相当）
ただし、水をかけたり、水の中に落としたりすると故障の原因になりますのでご注意ください。

●スピーカーマイクロホン（オプション）を接続する場合、必ず付属のマイクプラグ固定金具を取り付けてください。マイクプラグ固定金具を取り付けない場合、本機はJIS保護等級4防沫型の基準を満たすことができません。また、スピーカーマイクロホンを使用しない場合は、SP/MIC端子のカバーは取り付けた状態でご使用ください。

●激しい振動、雨、粉塵がある環境では使用しないでください。

### ■電波妨害にご注意ください

●テレビ、ラジオ、パソコンなど電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。

**電波法に関するご注意**

●本機の裏面の技術基準適合証明ラベルをはがさないでください。使用できなくなります。
●本機を分解したり、改造して使用することは電波法により禁止されています。
●他人の通信を聞いて、これを漏らしたり、窃用することは電波法により禁止されています。
●無線機の使用が禁止されている所があります。航空機内、空港敷地内、新幹線車両内などでは使用しないでください。

# 梱包品を確認する

梱包品がすべて揃っていることを確認してください。

- ① トランシーバー（本体） ........ 1
- ② バッテリーカバー ........ 1
- ③ リチウムイオンバッテリー ........ 1
- ④ チャージャー ........ 1
- ⑤ ACアダプター ........ 1
- ⑥ ベルトフック ........ 1
- ⑦ マイクプラグ固定金具 ........ 1
- ・保証書 ........ 1
- ・サービス一覧表 ........ 1
- ・取扱説明書（本書） ........ 1

①

⑤

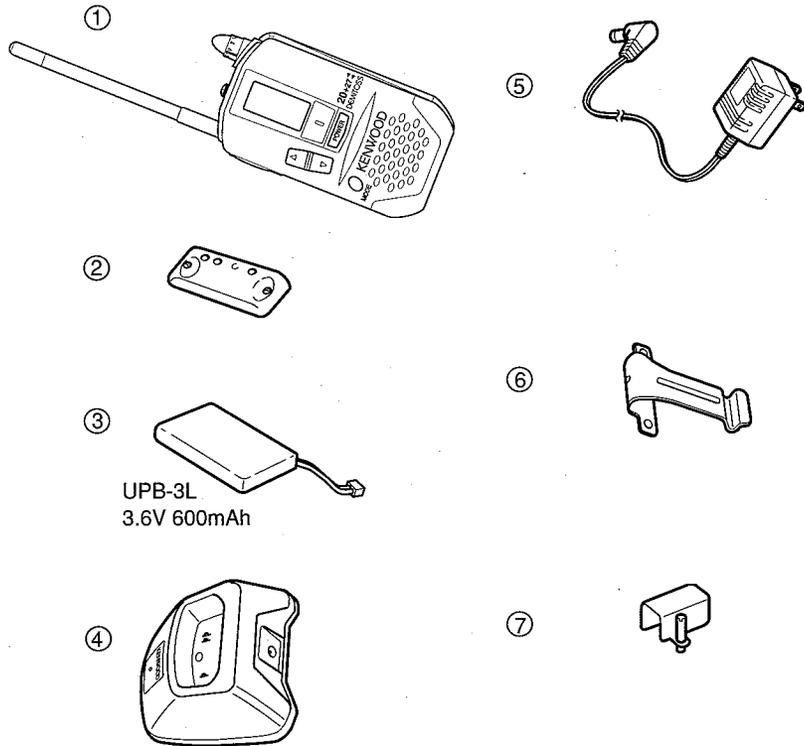
②

⑥

③

UPB-3L
3.6V 600mAh

④

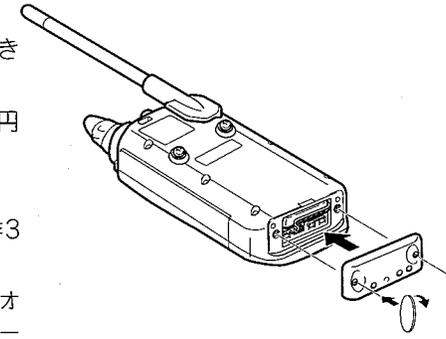
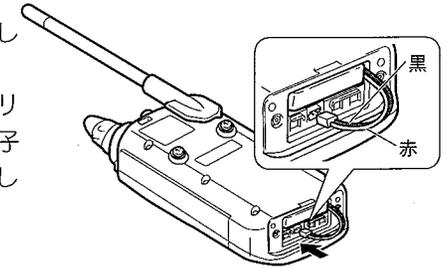
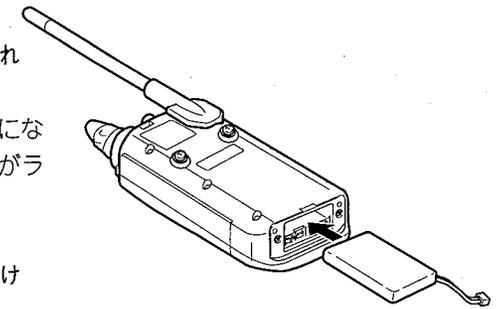
⑦

# ご使用前の準備



## ■バッテリーを取り付ける

1．付属のバッテリーを本体の収納部に入れる。
バッテリーはラベル面がスピーカー側になるようにしてください（右図では下側がラベル面になります。）。

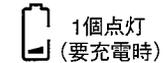
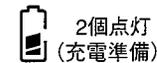
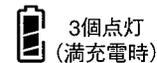
2．バッテリーの電源端子を本体に取り付ける。
端子は赤色のコードが左側になるようにして、確実に差し込んでください。
取り付けが終了したら、コードはバッテリーの上を通し、金色のチャージャー用端子の上にコードがかぶさらないように注意してください。

3．バッテリーカバーを取り付ける。
バッテリーカバーと本体の間に隙間ができないように注意してください。
防水機構になっていますので、ねじは10円玉を使って完全に締め付けてください。

バッテリーを本体から取り外すときは、操作3→1へ、取り付けと逆の作業を行います。
バッテリーについての注意は、3頁「リチウムイオンバッテリーの取扱について」と、10頁「バッテリーについて」をご覧ください。

バッテリー満充電時の運用時間の目安は約20時間です。（送信6秒、受信6秒、待ち受け48秒を繰り返した場合）

### ●バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量目安を３段階で表示します。
1個点灯になると、警告音がピーピーピーピーと4回鳴り、バッテリーが消耗していることをお知らせします。早めに電源を切り、バッテリーを充電するか、予備と交換してください。バッテリーが消耗していると電源を入れるたびに警告音が鳴ります。

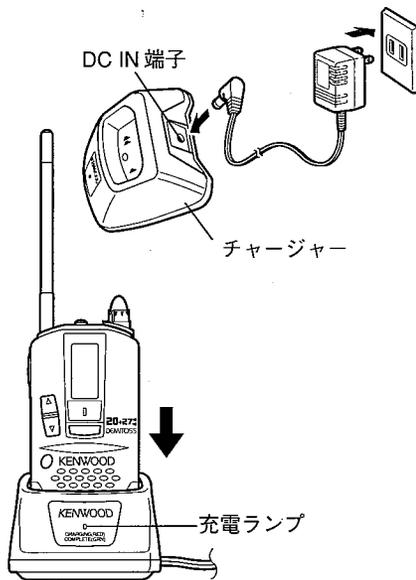
3個点灯（満充電時）　2個点灯（充電準備）　1個点灯（要充電時）

## ■充電のしかた

はじめてお使いになるときや、使用後は必ず充電してください。

（注意）
1.必ず専用のリチウムイオンバッテリーを使用して充電してください。指定以外のバッテリーを用いて充電すると故障の原因となります。
2.充電性能に影響を与えますので、充電する前に必ずトランシーバーの電源スイッチを切ってください。



1.ACアダプターのプラグをチャージャーのDC IN端子に差し込みます。
2.ACアダプターを電源コンセントに差し込みます。
3.本機の電源をOFFにしてチャージャーに差し込みます。
充電ランプが赤色に点灯します。
4.充電ランプが緑色に点灯したら充電完了です。
本機を抜き取ります。
充電時間の目安は約4時間です。

充電ランプの表示について。
赤色：充電中
緑色：充電完了時

KENWOOD
不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

（注意）
・充電中は本機の電源を必ずOFFにしてください。

バッテリーについて
・お買い上げ時は満充電しておりません。お使いになる前に専用チャージャーで必ず満充電してご使用ください。
・十分に充電しても、使用できる時間が短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお求めください。
・長時間お使いにならないときは、バッテリーをトランシーバーから取り出しておいてください。

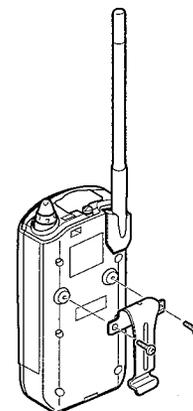
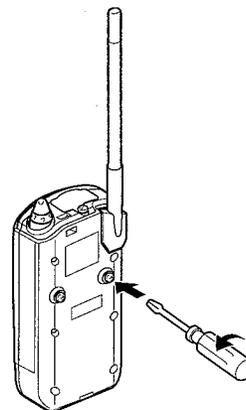
チャージャーについて
・チャージャーの端子は、ゴミなどが付着しないように綿棒や乾いたやわらかい布で時々拭いてください。



## ■ベルトフックを取り付ける

ベルトフック取り付けねじ（3mm×4mm）は、あらかじめ本体に取り付けてあります。

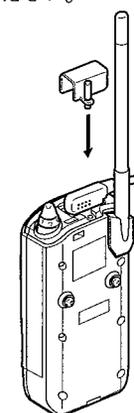
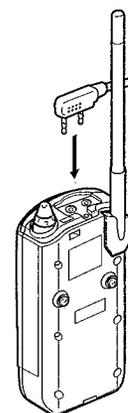
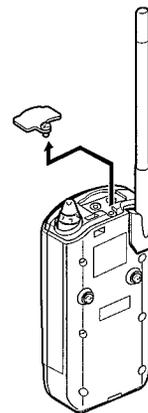
1.本体裏側のねじ2本を取り外します。

2.付属のベルトフックと本体のねじ穴を合わせて、ねじで止めます。

## ■スピーカーマイクロホンを取り付ける（オプション）

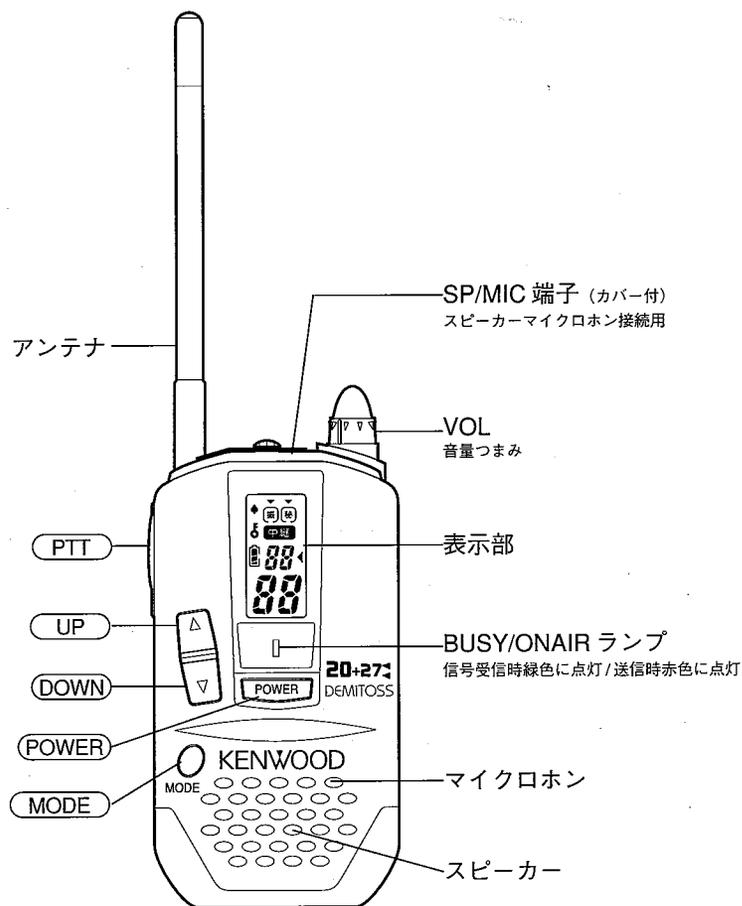
SP/MIC端子から内部へ水が侵入するのを防ぐために、マイクプラグ固定金具は必ず取り付けてください。

1.本体上部のSP/MIC端子カバーのねじを10円玉でゆるめ、カバーを取り外します。

2.スピーカーマイクロホンのプラグを取り付けます。

3.スピーカーマイクロホンのプラグを固定金具で止めます。ねじは10円玉を使って確実に締め付けてください。

（注意）スピーカーマイクロホンを取り外すときは、プラグ部をしっかり持って取り外してください。ケーブルを持つて取り外すと、故障の原因となります。

# 各部の名称と機能

■本体

（参考）

（　）は操作で使用するキーの名称です。

基本編

| キーの名称 | 通常の動作 | 1秒以上押した時の動作 | キー十電源ON時の動作 |
|---|---|---|---|
| (POWER) | ・電源のON/OFF | 無し | |
| (PTT) | ・送信（押している間のみ）<br>・コールトーン1の送出（＋(DOWN)）<br>・コールトーン2の送出（＋(UP)） | 無し | ・コールトーン2の変更（＋(UP)）<br>・コールトーン1の変更（＋(DOWN)）<br>・運用モード切替（＋(MODE)） |
| (UP) | ・チャンネルアップ<br>・オートチャンネルセレクト機能の解除<br>・グループ番号のアップ（グループ番号設定時）<br>・スクランブル機能のON/OFF（スクランブル機能設定時）<br>・振動着信機能のON/OFF（振動着信機能設定時） | チャンネル/グループ番号の連続アップ | ・ランプ常時点灯のON/OFF<br>・オールリセット（＋(DOWN)）<br>・コールトーン2の変更（＋(PTT)）<br>・APOのON/OFF（＋(MODE)） |
| (DOWN) | ・チャンネルダウン<br>・オートチャンネルセレクト機能の解除<br>・グループ番号のダウン（グループ番号設定時）<br>・スクランブル機能のON/OFF（スクランブル機能設定時）<br>・振動着信機能のON/OFF（振動着信機能設定時） | チャンネル/グループ番号の連続ダウン | ・ビープ音のON/OFF<br>・オールリセット（＋(UP)）<br>・コールトーン1の変更（＋(PTT)）<br>・常時モニターの設定（＋(MODE)） |
| (MODE) | ・設定/変更する機能の選択、確定（チャンネル→グループ番号→スクランブル→振動着信の順に選択）<br>・オートチャンネルセレクト機能の解除 | 無し | ・キーロックの設定/解除<br>・APOのON/OFF（＋(UP)）<br>・常時モニターの設定（＋(DOWN)）<br>・運用モードの切替（＋(PTT)） |

基本編

## ■表示部

**振動着信設定カーソル**
振動着信機能設定モードを選択したとき点滅します。

**APO表示**
オートパワーオフ機能（APO）がON時点灯します。

**振動着信表示枠**
振動着信機能がON時「振」表示が点灯、OFF時消灯します。

**キーロック表示**
キーロックON時点灯、OFF時消灯します。

**バッテリー残量表示**
バッテリーの残量目安を3段階で表示します（9頁参照）。

**スクランブル設定カーソル**
スクランブル設定モードを選択したとき点滅します。

**スクランブル表示枠**
スクランブル機能がON時「秘」表示が点灯、OFF時消灯します。

**レピーター運用モード表示**
「中継」表示が点灯するとレピーター運用モード、消灯時はノーマルモードになります。

**グループ番号設定カーソル**
グループ番号設定モードを選択したとき点滅します。

**グループ番号表示**
グループ番号（1～38、OF）を表示します。

振 秘 中継 88 88

**チャンネル番号表示**
送信/受信で使用するチャンネル番号を表示します。
運用モード別チャンネル数は次のとおりです。

| ノーマルモード時 | レピーター運用モード時 |
|---|---|
| 1～11チャンネル<br>h1～h9チャンネル | 1～18チャンネル<br>h1～h9チャンネル |

基本編



# 基本的な通話のしかた（ノーマルモード編）

チャンネルを合わせるだけで通話できます。
相手と同一のチャンネルに合わせた後、送信、受信を交互に切り替えながら通話します。
まず、2台で通話テストを行なってください。

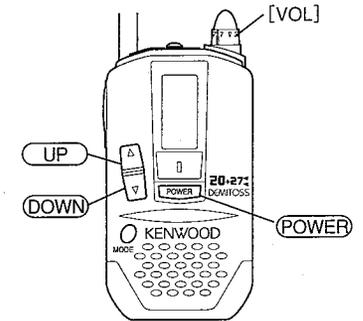
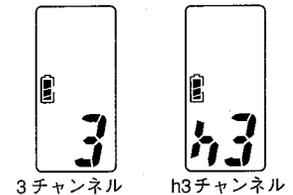
本機には2つの運用モードがあります。通話のしかたは、設定に合わせた頁をご覧ください。
・ノーマルモード：15～17頁参照　・レピーター運用モード：18～21頁参照

## ■準備

1．電源を入れる
POWERを表示が出るまで押す。
電源が入り、表示が出ます。
（電源を切るときは、表示が消えるまでPOWERを押してください。）

2．運用モードを確認する
運用モードの切り替えは22頁を参照してください。

3．［VOL］を右に少し回し、音量を上げておく

4．UPかDOWNでチャンネルを合わせる

チャンネルは次の中から選べます。
1～11、h1～h9チャンネル
1～11チャンネル
（従来の11チャンネルのトランシーバーとの交信にも使えます）
h1～h9チャンネル
（従来の9チャンネルのトランシーバーとの交信にも使えます）
従来の機種については43頁をご覧ください。

チャンネルの表示例

（参考）
UPかDOWNを1秒以上押し続けると、その間チャンネル番号は早送りされます。

（注意）
・グループモードやスクランブルモードになっていたら解除してください。（24、26頁参照）
・設定したチャンネルをだれかが使っている時は、相手と打ち合わせのうえ他のチャンネルへ切り替えてください。
・「近距離（約10m以内）に他のチャンネルを使用しているトランシーバーが有ると、h7と1、h8と2、h9と3チャンネルの組み合わせで混信をおこす場合がありますので、多数のグループが近距離で運用する場合は、同一グループチャンネル（h1～h9または1～11チャンネル）内での運用をお勧めします。

基本編

# さっそく通話してみよう

## 送信する

1 .(PTT)(トークスイッチ) を押しながら話す

(PTT)を押すと "BUSY/ONAIRランプ" が赤色に点灯し、送信状態になります。

2 . 話し終わったら、(PTT)を離す

(PTT)から指を離すと受信待ち受け状態になります。

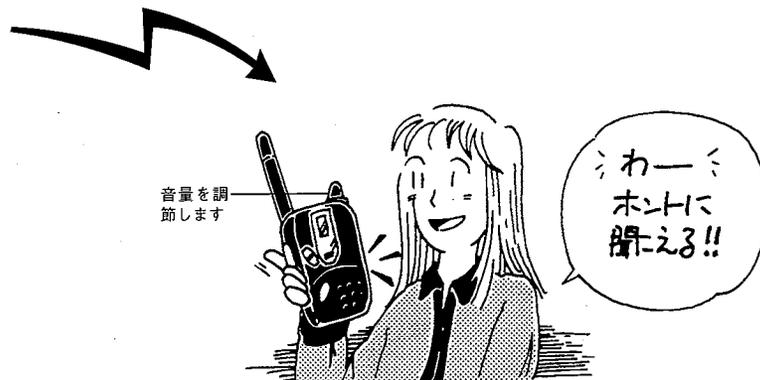
(注意)

- (PTT)を押している間は送信状態、離すと受信状態になります。
- 送信時はマイク部から口を5cm位離してお話しください。
- "BUSY/ONAIR ランプ" が緑色に点灯中に、(PTT)を押すとビープ音が鳴り、送信はできません。"BUSY/ONAIR ランプ" が消えるまでお待ちください。
- 1回に話せる時間は3分です。残り時間が30秒になると、カウントダウン表示でお知らせします。(36頁「通話時間終了予告機能」参照)。
- キーロックしておくと、通話中に間違ってキーを押してもチャンネルやモードは変わらず安心です (33頁「キーロックする」参照)。





## 受信する

1 . 待っているだけで・・・ほら、
聞こえる、聞こえる!!

信号を受信すると "BUSY/ONAIR ランプ" が緑色に点灯します。

2 . 応答するときは、(PTT)を押しながら話す

操作は16頁「送信する」を参照してください。

**■他の通話モードをお使いになるとき**

本機には基本の通話以外に、次のような通話モードもあります。必要に応じて設定してください (23頁「通話モードの設定」参照)。
通話のしかたは、基本の通話と同じです。

- グループモード - - - 仲間どうしで通話したいとき (23頁参照)。
- スクランブルモード - - - 他の人に聞かれたくないとき (25頁参照)。

# 基本的な通話のしかた（レピーター運用モード編）

（注意）
・網がけの頁（18～21頁）はレピーターを使う場合のみ必要な説明です。
・このモードではオプションのレピーター（UBZ-RG27）を併用しないと通話できません。

レピーター運用モードで通話するには、双方のチャンネルとグループ番号をレピーターのチャンネルとグループ番号に合わせておきます。準備が終わったら送信、受信を交互に切り替えながら通話します。まず、2台で通話テストを行なってください。レピーターに関しては、UBZ-RG27に付属している取扱説明書をご覧ください。
チャンネル設定により、従来のUBZ-RG9/RG18でも使用できます。詳細は43頁をご覧ください。

## ■準備

1．電源を入れる
POWERを表示が出るまで押す。
電源が入り、表示が出ます。
（電源を切るときは、表示が消えるまでPOWERを押してください。）

2．運用モードを確認する
運用モードの切り替えは22頁を参照してください。

3．[VOL] を右に少し回し、音量を上げておく

4．UPかDOWNでチャンネルを合わせる

チャンネルは次の中から選べます。
1～18、h1～h9チャンネル
1～18チャンネル
（従来の18チャンネルのレピーターとのアクセスにも使えます）
h1～h9チャンネル
（従来の9チャンネルのレピーターとのアクセスにも使えます）

3チャンネル
グループ番号15

h3チャンネル
グループ番号15

チャンネルとグループ番号の表示例

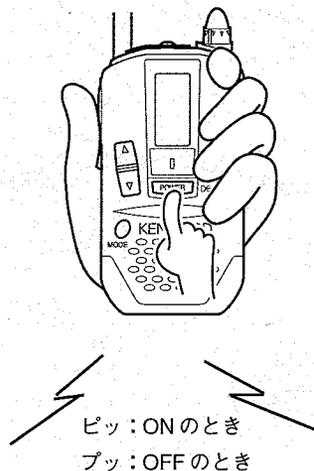
5．グループ番号を合わせる
グループ番号の選択は23頁「グループモードの設定」を参照してください。

（参考）
チャンネル番号とグループ番号は、選択時にUPかDOWNを1秒以上押し続けると早送りされます。

（注意）
設定したチャンネルをだれかが使っている時は、相手と打ち合わせのうえ他のチャンネルへ切り替えてください。



## ■通話終了告知機能の設定

レピーター運用モード時に本機能をONに設定しておくと、自局の送信が終了したことを、相手局にビープ音で知らせます。初期設定はOFFです。

1．レピーター運用モードに設定する
確認や設定については22頁を参照してください。

2．いったん電源を切る

3．PTTを押しながらPOWERを押す
電源が入り、通話終了告知音（ピッ）が鳴ります。
通話終了告知機能がONになりました。

OFFにするときは、上記の操作2、3を繰り返します。
電源が入り、キーOFF音（プッ）が鳴ります。
通話終了告知機能がOFFになります。

（注意）
・通話終了告知機能をONに設定しても、ノーマルモードでは動作しません。
・ノーマルモードでは通話終了告知機能をON、OFFすることはできません。

# さっそく通話してみよう

## 送信する

アクセス確認

**1 .(PTT)を押し続けてレピーターアクセスを確認する**

アクセス音（ピッ）が鳴ったら(PTT)を押したままで、操作2へ移ってください。
エラー音（ピッピッピッ…）が鳴ったら1の操作を繰り返します。

通話開始

**2 .(PTT)を押しながら話す**

次の通話からは、2と3の操作となります。
アクセスが外れたり、通話時間が終了したら
再度1から操作してください。

(PTT)を押すと"BUSY/ONAIRランプ"が赤色に点灯し、送信状態になります。

**3 .話し終わったら、(PTT)を離す**

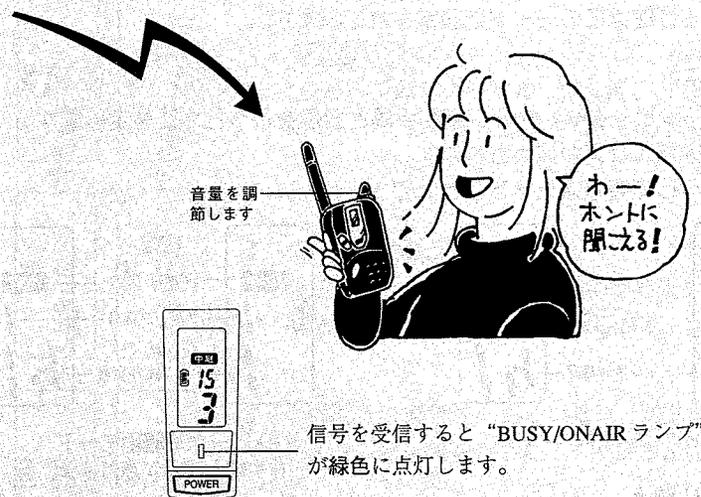
(PTT)から指を離すと受信待ち受け状態になります。
・通話終了告知機能をONに設定しておくと、相手に送信終了をビープ音で知らせます。

（注意）
・(PTT)を押している間は送信状態、離すと受信状態になります。
・送信時はマイク部から口を5cm位離してお話しください。
・1回に話せる時間は3分です。残り時間が30秒になると、カウントダウン表示でお知らせします。（36頁「通話時間終了予告機能」参照）。
・キーロックしておくと、通話中に間違ってキーを押してもチャンネルやモードは変わらず安心です（33頁「キーロックする」参照）。



## 受信する

**1 .待っているだけで・・・ほら、**
**聞こえる、聞こえる！！**

信号を受信すると"BUSY/ONAIRランプ"が緑色に点灯します。

（注意）
・レピーターの通話制限時間は3分です。通話時間が2分50秒になると予告音が鳴り、3分経過後通信を終了します。
・相手の送信が終わると"ピッ"と鳴り、音で知ることができます（相手が通話終了告知機能をONに設定時のみ→19頁参照）。

**2 .応答するときは、(PTT)を押しながら話す**

### ■他の通話モードをお使いになるとき

本機のレピーター運用モードでは基本の通話以外に、次のような通話モードもあります。
必要に応じて設定してください。
通話のしかたは、基本の通話と同じです。

・スクランブルモード－－－他の人に聞かれたくないとき（25頁参照）。

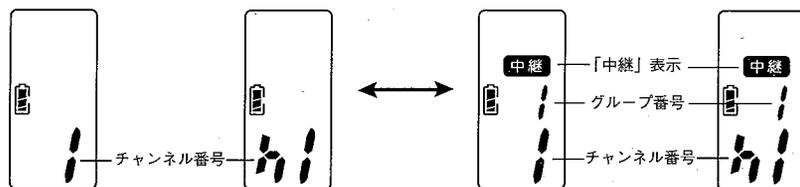
# 運用モードの確認

本機には、次の2つの運用モードがあります。使用目的により、どちらのモードでも選択することができます。ただし、運用モードのちがう相手との通信はできません。

・ノーマルモード

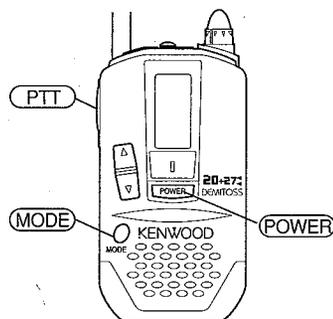
⇒本機どうしで直接相手局と通信を行うときに設定します。
レピーターを使用することはできません。
お買い上げ時はこのモードに設定されています。

・レピーター運用モード

⇒中継機（レピーター）を介して相手局と通信を行うときに設定します。
本機の通話エリアが拡大されます。
本機どうしで直接通信することはできません。

ノーマルモード　　レピーター運用モード（「中継」表示が点灯する）

## ■運用モードの切り替え

1．いったん電源を切る

2．(PTT)と(MODE)を押しながら、(POWER)を押す
電源が入り、表示が点灯します。
上記の操作を繰り返すたびに2つのモードが切り替わります。
目的の運用モードを選択します。

（参考）

・運用モードは相手またはグループ全員が同じモードに設定しておかないと通信できません。
・レピーター運用モードに設定すると自局のチャンネル番号とグループ番号がレピーターのチャンネル番号とグループ番号に一致したときのみ通信可能となります。
・運用モードを切り替えると、チャンネル番号、グループ番号、オートチャンネルセレクト機能、スクランブル機能、振動着信機能はクリアされて初期設定値に戻ります。

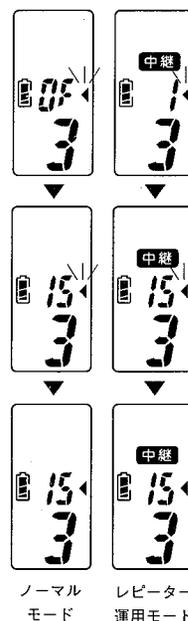




# 通話モードの設定

通話モードを設定するときは、あらかじめグループ全員が同じチャンネルに合わせておいてください。

## ■グループモードの設定

チャンネルとグループ番号が同じ仲間の声だけが聞こえます。

1．(MODE)を押す
“グループ設定カーソル”が点滅し、“OF”（レピーター運用モードでは、現在設定されている番号）が表示されます。10秒以内に次の操作をしてください。

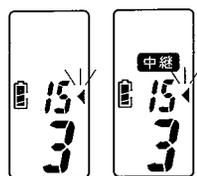
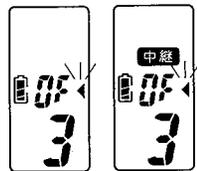
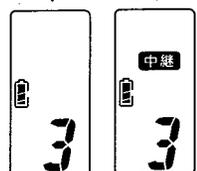
2．(UP)または(DOWN)を押す
設定するとき：“1～38”の中から選択します（例15)。
解除するとき：“OF”を選択します。

3．(MODE)を3回押す。あるいは、そのまま10秒待つ
グループ番号が設定され、チャンネル設定モードに戻ります。

（参考）

・グループ番号は1回設定すると、全チャンネルに共通で使えます。
・操作2で“OF”表示を選択すると、グループ番号は解除されます。
・操作2で(UP)か(DOWN)を1秒以上押し続けると、グループ番号は早送りされます。

（注意）
グループモードでも、同じチャンネルの電波は全て受信されます。他のグループがそのチャンネルを使っていると、音声は聞こえなくても受信状態になり”BUSY/ONAIRランプ”が緑色に点灯し、(PTT)を押してもプーと鳴り送信できません。

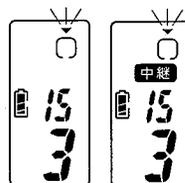
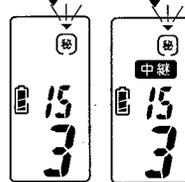
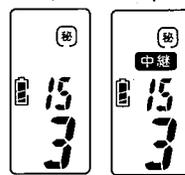
## ●グループモードを解除するには

1. (MODE)を押す
"グループ設定カーソル" が点滅します。
10秒以内に次の操作をしてください。

2. (UP)または(DOWN)を押す
"OF" を表示させます。

3. (MODE)を2回押す。あるいは、そのまま10秒待つ
グループモードが解除され、チャンネル設定モードに戻ります。

(注意)
・レピーター運用モードで使用中にグループモードを解除すると、中継器（レピーター）は動作しなくなります。
・レピーター運用モードにおいて、グループモードを解除する場合、中継器のグループ番号も "OF" に設定してください。

基本編



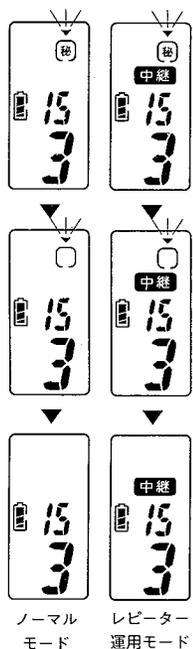
## ■スクランブルモードの設定

秘話になり、スクランブルモードに設定していない人には会話を聞き取れなくします。スクランブルはグループモードに対して設定されます、あらかじめグループモードに設定しておきます (23頁参照)。レピーター運用モードでは、そのままの状態で設定できます。

1. (MODE)を2回押す
"スクランブル設定カーソル" が点滅します。
10秒以内に次の操作をしてください。

2. (UP)または(DOWN)を押す
"秘" 表示を点灯させます。

3. (MODE)を2回押す。あるいはそのまま10秒待つ
スクランブルが設定され、チャンネル設定モードに戻ります。

(注意)
スクランブルが設定されていても、グループ番号を "OF" にすると強制的にスクランブル設定はOFFになります。

(注意)
第三者でもグループ番号とスクランブルモードが一致した場合は傍受できます。高度な機密を要する通話に使うことはお薦めできません。

基本編

●スクランブルモードを解除するには

1．(MODE)を２回押す
“スクランブル設定カーソル” が点滅します。
10秒以内に次の操作をしてください。

2．(UP)または(DOWN)を押す
“秘” 表示を消します。

3．(MODE)を２回押す。あるいはそのまま10秒待つ
スクランブル通話モードが解除され、チャンネル設定モードに戻ります。

（注意）
チャンネル、グループ番号、スクランブルの設定は通話する相手と同一に合わせてください。設定がちがうと通話できませんのでご注意ください。

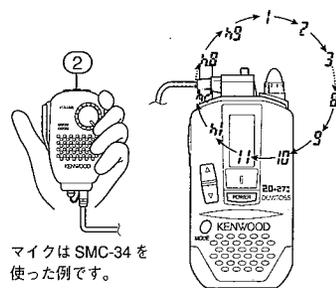
基本編



# 便利な機能

## ■オートチャンネルセレクト機能（注意：レピーター運用モードでは利用できません）

（オプションのリモコン対応マイク接続時のみ）

あらかじめ仲間と設定しておいたチャンネルが混んでいて、いざ連絡したいときに話しができない。そんなとき、空いているチャンネルを自動的に捜してくれるのがオートチャンネルセレクトです。仲間を捜す目印にグループ番号を使います。全員、同じグループ番号にして、あらかじめグループモードまたはスクランブルモードに設定しておいてください。(23、25頁参照)

マイクは SMC-34 を使った例です。

チャンネル表示の範囲は「チャンネル範囲」の設定状態により変わります。

1．チャンネル範囲の設定をする
設定は28頁をご覧ください。お買い上げ時の設定は「全チャンネル範囲」でUBZ-BG20Rどうしではこのまま使用できますが「バンド範囲」に設定すると空きチャンネル捜しが早くなり便利です。

2．全員オプションマイクの②を１秒以上押す
図のように“チャンネル番号表示”が変わり続けます。
（注意）
スピーカーマイク背面のLOCKスイッチが ONの場合、ボタンを押しても動作しません。

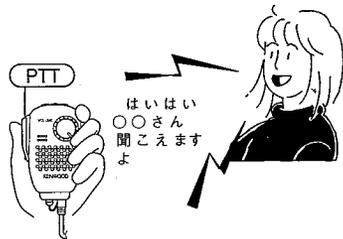
3．呼び出す側は
(PTT)を２～３秒押し続ける
自動的に空いているチャンネルを捜し、そのチャンネルで一時的に停止（10秒）します。その後、通常よりゆっくり呼びかけた後、(PTT)を離し、相手がそのチャンネルで応答してくるのを待ちます。この間、チャンネル番号表示が点滅します。

4．呼び出される側は
“BUSY/ONAIRランプ” が緑色に点灯し、プルルと鳴って、チャンネル番号が点滅するので、呼び出されているのが分かります。

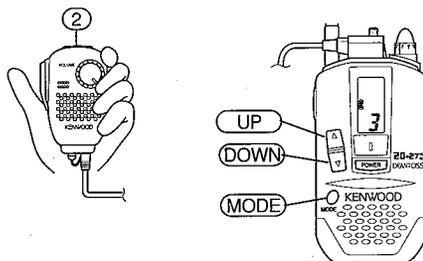
プルル

（注意）
オートチャンネルセレクト機能は、サーチするチャンネル数が多いと空きチャンネルを捜すのに時間がかかります。9チャンネルまたは11チャンネルセレクトの「バンド範囲」に設定して使用することをお勧めします（28頁参照)。

使いこなし編

4．呼び出されたら

"BUSY/ONAIRランプ"が消えるのを待って、(PTT)を押して応答します。
応答は10秒以内に行なってください。10秒以上送信、受信が無いと、チャンネルセレクトを再開します。

●オートチャンネルセレクト機能を解除するには

オートチャンネルセレクト中に(UP)(DOWN)(MODE)のいづれか、または、オプションマイクの②を押します。
オートチャンネルセレクト機能は解除され、表示されているチャンネルを受信します。

（注意）
レピーター運用モードでは、オートチャンネルセレクト機能は動作しません。

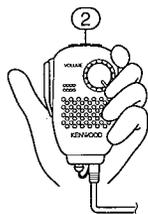
## ■オートチャンネルセレクト機能のチャンネル範囲の設定

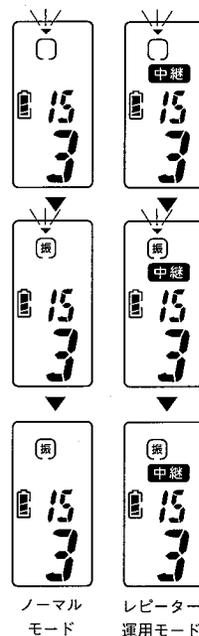
オートチャンネルセレクト機能を使用する時は、チャンネル範囲を相手局の機種に合うように切り替えることが必要です。チャンネル範囲の種類は次のとおりです。なお、お買い上げ時の設定は"全チャンネル範囲"です。相手局のチャンネル表示は43頁の「UBZシリーズ互換表」をご覧ください。

●「全チャンネル範囲」に設定した場合
1～11チャンネル、h1～h9チャンネルの全チャンネルをスキャンします。

●「バンド範囲」に設定した場合
オートチャンネルセレクトを開始するときに、どのチャンネル表示にしておくかによりスキャンする範囲が次のように変わります。
・1～11チャンネルの間で開始した場合→1～11チャンネルをスキャンします。
・h1～h9チャンネルの間で開始した場合→h1～h9チャンネルをスキャンします。

1．いったん電源を切る

2．オプションマイクの②を押しながら、(POWER)を押して電源を入れる
ビープ音がプッと鳴り、「バンド範囲」が設定されます。
再度1、2の操作をくり返すと、ビープ音がピッと鳴り「全チャンネル範囲」に戻ります。

## ■振動着信機能

呼び出されたことを、本機の振動によって知ることができます。音を出したくないときや、騒音で音が聞こえないときなどに便利です。

1．(MODE)を3回押す（グループ機能OFF時は2回）
"振動着信設定カーソル"を点滅させます。
10秒以内に次の操作をしてください。

2．(UP)、(DOWN)を押す
"振"表示を点灯させます。

3．(MODE)を押す。または10秒間操作をしないでいる
振動着信機能が設定され、約1秒間振動します。

（参考）
途中で解除するには、操作手順2.で"振"表示を消します。

● 呼び出されたとき
本機が約10秒間振動します。

1．(PTT)を押し、送信します
振動は止まり、"振"表示が点滅します。
送信については16、20頁を参照してください。

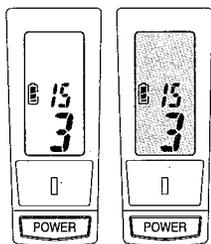
（注意）
・レピーター運用モードのとき、送信してレピーターアクセスに成功すると、"振"表示は点滅します。アクセスに失敗すると"振"表示は点灯のままです。
・"振"表示が点滅中は相手から呼び出されても振動しません。
・"振"表示の点滅は30秒間送信せず、呼び出しもないときは点滅を終了します。
・グループ番号を設定している場合、そのチャンネルが信号を受信しても、グループ番号が一致しないときは振動しません。

## ■照明の常時点灯

暗い場所で操作するときに表示部がよく見えるように、照明ランプを常時点灯させる機能です。初期設定はOFFです。なお、通常は照明が自動的に点灯／消灯する自動照明機能になっています。(36頁「自動照明機能」参照)

ON時　OFF時

1．いったん電源を切る

2．(UP)を押しながら、(POWER)を押し、電源を入れる
1、2の操作を行うたびに、照明のON/OFFが切り替わります。
ONでは照明が常時点灯します。
OFFでは自動照明機能になります。

(注意)
照明を常時点灯にするとバッテリーの消耗が早くなります。

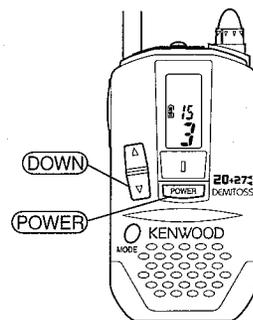
## ■ビープ音を止める

キー操作をすると確認のためビープ音が鳴ります。この音が耳ざわりな時は止めることもできます。ただし、キー操作時のビープ音がOFFに設定されている時でも、動作上重要な意味を持つ次のビープ音は鳴ります。初期設定はONです。

- バッテリー警告音
- 送信禁止音
- APO警告音
- コールトーン
- 通話終了告知音（設定ON時のみ）
- PLLアンロック音（無効音）
- 通信時間制限予告音
- レピーターアクセス音
- レピーターアクセスエラー音

1．いったん電源を切る

2．(DOWN)を押しながら、(POWER)を押し、電源を入れる
1、2の操作を行うたびに、ビープ音のON/OFFが切り替わります。

ON：キー操作時ビープ音が鳴る
OFF：キー操作してもビープは鳴らない

(注意)
キーロック設定中は、ビープ音のON/OFF切り替えはできません。

使いこなし編

## ■APO（オートパワーオフ）をセットする

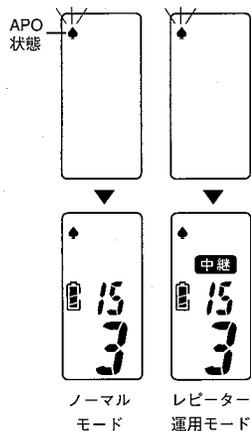
電源を切り忘れたとき働く節電機能です。1時間59分なにも信号を受信せず、なんらかのキー操作もしなかった時は、電源の切り忘れと見なして告知音を鳴らし、さらに同じ状態が1分間続くと（合計2時間）自動的に電源が切れ、APO状態になります。

APO ON 状態の表示例

1．いったん電源を切る

2．(MODE)と(UP)を押しながら(POWER)を押し、電源を入れる
APOがONになり、APO表示（♠）が点灯します。
APOをOFFにするには1、2の操作を繰り返し、"♠"表示を消します。

APO機能が動作すると、自動的に電源が切れ、"♠"表示が点滅し、APO状態になります。

### ● APO状態の解除

1．APO表示（♠）が点滅している事を確認する

2．(POWER)を押し、電源を入れる
電源がONになり、APO状態が解除されます。

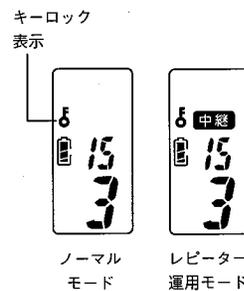
（注意）

・APO（オートパワーオフ）機能が動作して電源がOFFとなった状態では、(POWER)以外のキー入力はできなくなります。なお、この状態は電源OFFではありませんので、多少の電流は流れています。
・モニター中、オートチャンネルセレクト中はAPOは動作しません。



# こんな事もできます

## ■キーロックする（誤操作防止）

通話中はキーロックしておくと、間違ってキーを押してもチャンネルやモードは変わらないので安心です。

1．いったん電源を切る

2．(MODE)を押しながら、(POWER)を押して電源を入れる
"⚷"表示が点灯します。
(POWER)(PTT)［VOL］以外は動作しなくなります。

キーロックを解除するには上記の操作1、2を繰り返し、"⚷"表示を消します。

## ■相手をコールトーンで呼び出す

相手を電話の呼出音のような音（コールトーン）で呼び出すことができます。各コールトーンは、操作時に設定されている音色で鳴り、確認することができます。

### ●コールトーン1で呼び出す時

(PTT)を押したまま、(DOWN)を押す
押している間コールトーン1が送信されます。

### ●コールトーン2で呼び出す時

(PTT)を押したまま、(UP)を押す
押している間コールトーン2が送信されます。

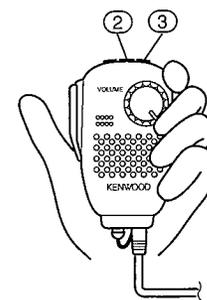
### ●コールトーン3-1で呼び出す時

（オプションのリモコン対応マイク接続時のみ）

リモコン対応マイクの③を1回押す
コールトーン3-1が3回送信されます。

### ●コールトーン3-2で呼び出す時（レピーター運用モード時のみ動作します）

（オプションのリモコン対応マイク接続時のみ）

リモコン対応マイクの②を1回押す
コールトーン3-2が3回送信されます。

## ■コールトーンの音色を変更する

コールトーン1と2は音色を変更することができます。グループで通信を行う場合、個別にコールトーンを設定すると、呼び出し人を区別することができます。

### ●コールトーン1の音色を変更する

1．いったん電源を切る

2．(PTT)と(DOWN)を押しながら、(POWER)を押して電源を入れる
　操作1と2を繰り返すたびに2種類の音色が交互に切り替わり、変更されたコールトーンが鳴ります。

### ●コールトーン2の音色を変更する

1．いったん電源を切る

2．(PTT)と(UP)を押しながら、(POWER)を押して電源を入れる
　操作1と2を繰り返すたびに2種類の音色が交互に切り替わり、変更されたコールトーンが鳴ります。

(注意)

・コールトーン3は、音色を変えることはできません。
・コールトーン1、2の音色を変更した時点では、コールトーンは送信されません。

使いこなし編

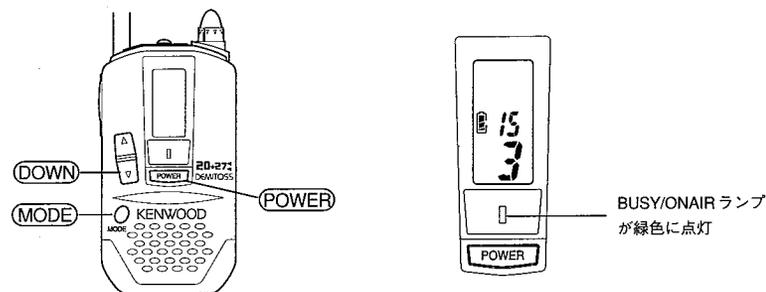


## ■モニター

受信音声が途切れて聞き取れない場合はモニターにすると、雑音に混じって音声が聞こえることがあります。

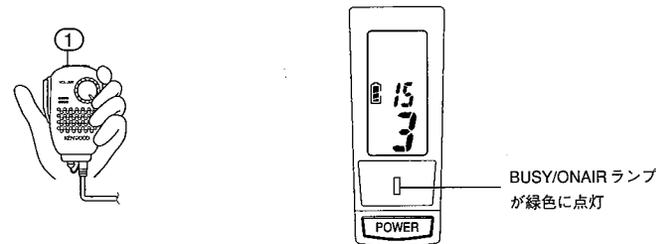
### ●常時モニター

1．いったん電源を切る

2．(MODE)と(DOWN)を押しながら、(POWER)を押して電源を入れる
　"BUSY/ONAIRランプ"が緑色に点灯し、スピーカーから常時音が出るようになり、信号の状態をモニターできます。
　この機能を解除するには、電源を入れなおします。

(注意)

ノーマルモードにてオートチャンネルセレクト機能をONにした場合、常時モニター機能は自動的にOFFになります。

### ●一時モニター（オプションのリモコン対応マイク接続時のみ）

1．オプションマイクの①を押す
　押している間だけ"BUSY/ONAIRランプ"が緑色に点灯し、スピーカーから音が出て、信号の状態をモニターできます。

(注意)

グループモードのときモニターにすると、そのチャンネルで受信した全ての音声が聞こえます。

使いこなし編

# こんな機能もあります

**■自動照明機能**
キー操作時に表示部がよく見えるように、照明が自動的に点灯／消灯する機能です。電源を入れるとき点灯し、その後キー操作がないと5秒後に消灯します。また、キー操作を行うときも（PTTの操作を除く）、自動的に点灯します。その後キー入力がないと5秒後に消灯します。この機能のON/OFFはできません。

（注意）
照明ランプ常時点灯がONに設定されている時は、本機能の動作にかかわらずランプは常に点灯しています。

**■バッテリーセーブ機能**
受信待ち受け状態でキー操作しない状態が10秒以上続くと、バッテリーセーブ機能が働き電池の無駄な消耗を防ぐ機能です。BUSY信号が検出されるか、キー操作が行われるとバッテリーセーブ動作は解除されます。この機能のON/OFFはできません。

（注意）
・オートチャンネルセレクト機能実行中は動作しません。
・モニター中は動作しません。

**■通話時間終了予告機能**
本機の1回の通話時間は、送信、受信を合わせて3分間です。通話終了の30秒前になるとグループ番号表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10秒前になると“ピッ”と予告音が鳴り、3分たつと送信禁止音と共に通信をストップし、受信待ち受け状態に戻ります。この機能のON/OFFはできません。

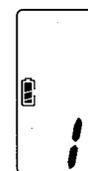
（注意）
・続けて通話するときは、通信ストップ2秒後にPTTを押して相手を呼び出してください。
・送信禁止音は、PTT、リモコンマイクの③、リモコンマイクの②（レピーター運用モード時）キーを離すまで鳴り続けます。

使いこなし編



# 故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に次頁の「症状による確認項目」を点検してください。それでも回復しない場合や、動作がおかしい場合、キーを押しても反応しない場合は、リセットしてみてください。

**■オールリセット**
設定してある内容は全て消去され、初期設定（工場出荷時の状態）に戻ります。

1．いったん電源を切る

2．UPとDOWNを押しながら、PWRを押して電源を入れる
全ての表示が点灯します。

3．押していたキーを離す
ビープ音が鳴り、初期設定状態に戻り、ノーマルモードでチャンネル1が表示されます。

保守編

## ■症状による確認項目

●共通事項

| 症状 | 原因 | 処置（参照頁） |
| --- | --- | --- |
| 電源が入らない。 | バッテリーが切れている。 | a.充電する。（10頁）<br>b.予備のバッテリーと交換する。（9頁） |
| 受信できない。<br>音量つまみを回しても音が出ない。 | a. (PTT)が押されて送信中になっている。<br>b. グループ番号がちがう。 | a. (PTT) をはなす。（16、20頁）<br>b.グループ番号を相手と同じにする。（23頁） |
| 相手と通話できない。 | a. チャンネルかグループ番号が違う。<br>b. 相手との距離が離れすぎている。<br>c. 通話モードが違っている。 | a. チャンネル、グループ番号を相手と 同じに合わせる。（15、18、23頁）<br>b. 7頁の通話のできる距離を目安に通話する。<br>c. 相手と同じ通話モードにする。（23頁） |
| どのキーを押しても表示が変化しない。 | キーロックになっている。 | キーロックを解除する。（33頁） |
| 照明が消えない。 | 照明の常時点灯がONになっている。 | 「照明の常時点灯」の設定をOFFに切り換える。（30頁） |
| 電池がすぐ無くなる。 | 照明の常時点灯をよく使う。 | 常時点灯は必要な時だけ使う。（30頁） |
| 聞き取れない音声が入ったり、何も聞こえないのにBUSY/ONAIRランプが緑色に点灯する。 | a. 同じチャンネルで別のグループ番号を使っているグループがいる。<br>b.スクランブル通話しているグループがいる。 | そのチャンネルが空かないときはチャンネルを変更する。 |
| チャンネルセレクトを止められない。 | キーロックになっている。 | キーロックを解除する。（33頁） |
| 音量を大きくするとプーという音がする。<br>表示がすぐ消える。 | バッテリーが消耗している。 | バッテリーを充電する。（10頁） |
| 送信ができない。 | BUSY/ONAIRランプが緑色に点灯している。 | チャンネルを変更するか、BUSY/ONAIRランプが消えるのを待つ。（16頁） |

●レピーター運用モード専用事項

| 症状 | 原因 | 処置（参照頁） |
| --- | --- | --- |
| レピーターにアクセスできない | アクセスエラー音が鳴らない<br>a. レピーター運用モードになっていない。<br>アクセスエラー音が鳴る<br>b. チャンネル番号、グループ番号がレピーターの番号と違っている。<br>c. レピーターとの距離が離れすぎている。 | a. レピーター運用モードに設定する。（22頁）<br>b. チャンネル番号、グループ番号をレピーターの番号と合わせる。（18、23頁）<br>c. 7頁の通話のできる距離を目安に通話する。 |
| 相手と通話できない | a. 相手がレピーター運用モードになっていない。<br>b. 相手のチャンネル番号、グループ番号が違う。 | a. レピーター運用モードに設定する。（22頁）<br>b. グループ内のトランシーバー、レピーターは全て同一のチャンネル番号、グループ番号に統一する。（18、23頁） |

保守編



# オプション

本機には、次のようなオプション（別売）が用意されています。

（注意）
SMC-34はJIS保護等級2防滴II型相当です。その他のオプションは防滴構造ではありません。

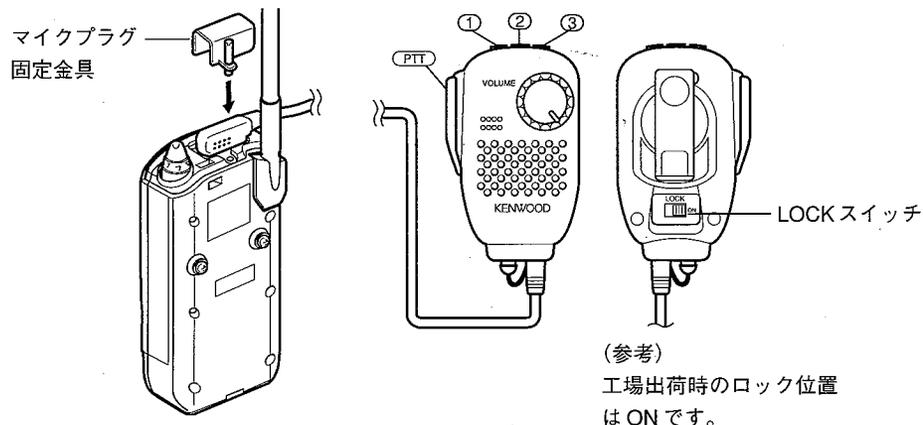
- SMC-34
  リモコン対応ボリューム付スピーカーマイクロホン
- EMC-3
  イヤホン付クリップマイクロホン
- HMC-3
  VOX、PTT付ヘッドセット
- HMC-4
  リモコン対応VOX/PTT/TOT切換式ヘッドセット
- HS-9
  プチホン型イヤホン
- UPB-3L
  リチウムイオンバッテリー（3.6V 600mAh）
- UBZ-RG27
  UBZ-BG20R用特定小電力中継機（27チャンネル/室内用）

保守編

## ■オプションの使い方

・**SMC-34**（リモコン対応ボリューム付きスピーカーマイクロホン）

本機のSP/MIC端子に取り付けます。併せて、SP/MIC端子から内部へ水が浸入するのを防ぐために、マイクプラグ固定金具を取り付けてください。詳細は11頁を参照してください。

（参考）
工場出荷時のロック位置はONです。

(PTT)（トークスイッチ）
送信するとき、このスイッチを押しながら話します。

①（モニタースイッチ）
相手の声が聞き取りにくいとき、押します(35頁参照)。

②（オートチャンネルセレクトスイッチ）
1秒以上押すと、電波を出している局を捜しはじめます。チャンネルを問わず同じグループ番号の人を捜します。もう一度押すと、オートチャンネルセレクトは止まります（27頁参照）。
・レピーター運用モード時はコールトーンスイッチになります。

③（コールトーンスイッチ）
電話のような音を3回鳴らして、相手を呼び出すためのスイッチです。鳴らし終わると受信待ちになります（33頁参照）。

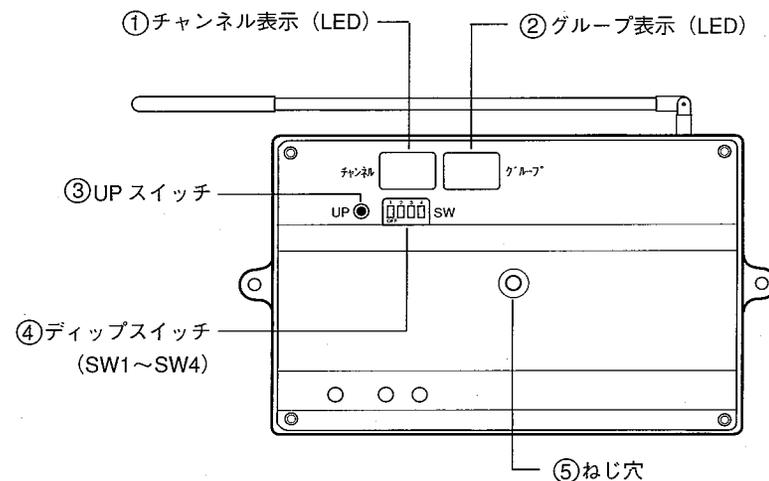
LOCKスイッチ（背面）
このスイッチをONにすると、マイクのみの機能になり、①～③のスイッチは使えなくなります。

（注意）
本機のSP/MIC端子に、スピーカーマイクロホンを接続したときは付属のマイクプラグ固定金具を取り付けないと、本体側は防滴にはなりません。



保守編

・**UBZ-RG27**（室内用特定小電力中継器）

レピーター運用モードのとき動作する中継器（レピーター）です。各種設定はUBZ-RG27に付属の取扱説明書をご覧ください。

① チャンネル表示（LED）
チャンネル番号を表示します。ディップスイッチを切り替えて、UPスイッチを押すと表示が5秒間点灯し、押すたびにチャンネル番号が切り替わります。表示は5秒間操作しないでいると消灯します。

② グループ表示（LED）
グループ番号を表示します。ディップスイッチを切り替えて、UPスイッチを押すと表示が5秒間点灯し、押すたびに番号が切り替わります。表示は5秒間操作しないでいると消灯します。

③ UPスイッチ
次の4つの機能を設定するとき押します。
・チャンネル表示とグループ表示のLEDを点灯させるとき。
・チャンネル番号を切り替えるとき。
・グループ番号を切り替えるとき。
・設定内容をリセットして、初期設定値に戻すとき。

④ ディップスイッチ（SW1～SW4）
機能を設定するとき使用します。
SW1：チャンネル番号とグループ番号の設定
SW2、3：ハングアップタイムの設定
SW4：使用しません

⑤ ねじ穴
本機にふたを取り付けるとき、ねじ止めするのに使います。

保守編

# 定格

| | |
|---|---|
| 送受信周波数 | UBZ-BG20R<br>・シンプレックス<br>422.2～422.3MHz<br>（12.5kHzステップ）h1～h9チャンネル<br>422.050～422.175MHz<br>（12.5kHzステップ）1～11チャンネル<br><br>・セミデュプレックス<br>受信：421.5750～421.7875MHz<br>（12.5kHzステップ）1～18チャンネル<br>421.8125～421.9125MHz<br>（12.5kHzステップ）h1～h9チャンネル<br>送信：440.0250～440.2375MHz<br>（12.5kHzステップ）1～18チャンネル<br>440.2625～440.3625MHz<br>（12.5kHzステップ）h1～h9チャンネル |
| 電波型式 | F3E、F2D |
| 周波数安定度 | ±4ppm（－10℃～＋50℃） |
| 消費電流 | 送信時（電源電圧3.8V時）　70mA以下<br>受信定格出力時　110mA以下<br>受信待受時　50mA以下<br>バッテリーセーブ時（平均）　約10mA |
| 性能保証温度範囲 | －10℃～＋50℃ |
| 電源電圧（定格電圧） | DC 3.8V（マイナス接地） |
| 送信出力 | 10mW |
| 低周波出力 | 50mW以上（定格電圧、8Ω負荷、10%歪時） |
| 時間制限装置 | 3分方式 |
| 通信方式切替機能 | ノーマルモード：シンプレックス<br>レピーター運用モード：セミデュプレックス |
| 受信感度 | －8dBμ以下（12dB SINAD） |
| 寸法 mm（突起物含まず） | 幅 54 ×高さ 98 ×奥行 26 |
| 質量（重量） | 約140g（リチウムイオンバッテリーを含む） |

保守編



# 参考

## ■UBZシリーズ互換表

本機と従来の機種間の互換性は次のとおりです。
◎：グループモード有り、スクランブルモード有りで通話可能
○：グループモード有り、スクランブルモード解除で通話可能
△：グループモード無し、スクランブルモード解除で通話可能
×：通話不可

| | UBZ-BG20R（特定小電力トランシーバー） | | | | UBZ-RG27（中継機） | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ノーマルモード チャンネル表示 | | レピーター運用モード チャンネル表示 | | 9チャンネル 表示 | 18チャンネル 表示 |
| | h1～h9 | 1～11 | h1～h9 | 1～18 | h1～h9 | 1～18 |
| UBZ-7 | △ | × | × | × | × | × |
| UBZ-17 | ○ | × | × | × | × | × |
| UBZ-L3 | △ | × | × | × | × | × |
| UBZ-LA5 | ◎ | × | × | × | × | × |
| UBZ-LA5 | ◎ | × | × | × | × | × |
| UBZ-LA7 | ◎ | × | × | × | × | × |
| UBZ-LA7R | ◎ | × | × | × | × | × |
| UBZ-LF9 | ◎ | × | × | × | × | × |
| UBZ-LF11 | × | ◎ | × | × | × | × |
| UBZ-LG9 | ◎ | × | × | × | × | × |
| UBZ-LG11 | × | ◎ | × | × | × | × |
| UBZ-LH9 | ◎ | × | × | × | × | × |
| UBZ-LH11 | × | ◎ | × | × | × | × |
| UBZ-LH20 | ◎ | ◎ | × | × | × | × |
| UBZ-B5 | × | ◎ | × | × | × | × |
| UBZ-BA5 | × | ◎ | × | × | × | × |
| UBZ-B7 | × | ◎ | × | × | × | × |
| TCP-U70 | × | × | × | × | × | × |
| UBZ-B700 | × | ◎個別呼び出し不可 | × | × | × | × |
| TCP-U700 | × | ◎個別呼び出し不可 | × | × | × | × |
| UBZ-BG9R | ◎ | × | UBZ-RG9<br>UBZ-RG27 | × | ◎ | × |
| UBZ-BG11R | × | ◎ | × | UBZ-RG18<br>UBZ-RG27 | × | ◎ |
| UBZ-BG20R | ◎ | ◎ | UBZ-RG9<br>UBZ-RG27 | UBZ-RG18<br>UBZ-RG27 | ◎ | ◎ |

保守編